

初めての3月インカレは、納得のミドルと課題の残るリレーという結果で幕を下ろした。そして一息つく暇もなく、夢の舞台JWOCに向けた準備が始まる。この頃になり、JWOCに行けるかもしれないと言う気持ちが芽生え始めたという。「大阪であった全日本大会には参加しました。山に入ることが目的で。前日の夜行バスに乗り、(大会に)参加して、夜行バスで帰ると言うスケジュールで強行しました(笑)。(JWOCの)セレクション前に1度調整のために山に入りたかったというのが一番大きかったのですが、20Eの権利も持っていたので、一度参加してみたいなとも思っています。」

しかし、このころの新井選手の置かれた状況は決して理想的なものではなかった。「その期間は邦楽部の方で、交流会という私が幹事をやらなくてはならない仕事がありました。その仕事に追われていて、あまり(オリエンテーリングの)練習ができなかったので、ほんと週1回走ればいいのかというぐらいでした。(セレクションを通過できるか)ちょっと不安がありました。」

そして、4月12日のセレクション初日。場所は日光、奇しくも新井選手に転機をもたらしたインカレロングが行われた地である。

予選は、絶対決勝に行くんだという気持ちが強かった。

「初日はスプリントの予選と決勝の2本で、予選は結構いい結果が出せました。しかし決勝は疲労がたまっていて、だいぶミスをしてしまいました。レース後すぐに(JWOC代表に)決定という形にはなりません。2日目はインカレロングと同じテイムでミドルを行いました。(そのレースでも)ちょっとミスをして、正直これで行けるのかと思います。(成績があまり振るわず)やっぱり自分の中ではそれが限界なのかあと感じていたので、まさか(セレクションを)通れるとは…」

自分としては満足できないところもあったようだが、勝利の女神は新井選手に微笑んでくれた。選考の結果、見事JWOC日本代表の座を手に入れることができたのである。そして、日本代表選手となったことで環境も大きく変化する。

「毎週月曜日に過去1週間のトレーニング内容と翌週のトレーニング計画をメールで送れという指示がありました。あと、合宿で実際に(監督・コーチに)会ったとき、『こんなメニューをやってみたらいいのでは』といったアドバイスをいただきました。あと、今、脚(膝)があまりよくないので、スピードトレーニングではなく、LSDのようにできるだけゆっくりとしたペースで長時間走る練習をしろといわれました。」

長年JWOCの選手を指導している尾上監督より、きめ細かな指導が入っているようだ。JWOC選手のための強化合宿も用意されている。4月26日～29日、世界選手権(WOC)代表選手およびユニバー代表選手と合同の第1回強化合宿に参加した。「皆川さん(*8)に指導していただきました。最初は自分で回って(ランニングオブザベーションのこと)、最後に皆川さんの後をついていく(逆ランニングオブザベーションのこと)というメニューでした。後ろから(皆川選手を)見ていると、どんな特徴物を確認しているのかが良くわかりました。自分が普段見ないようなものまで見ていて、しかも、速いスピードの中で分析して進んでいらっやいました。(この練習は)すごく刺激になりました。」

夜のミーティングも重要なメニューの1つである。「ナイトメニューで、番場(*9)さんが地図読みの仕方という内容で講義をしてくださいました。その中で、地図(の情報)を瞬時にイメージできるように、地図読みの練習をやれといわれました。実際私もやってみたのですが、なかなか微地形とかをうまく(イメージが)できなくて、かんばってトレーニングしようと考えました。」

これまで以上の濃密なメニューを体験し、さらに成長する新井選手。第2回以降の強化合宿も予定されており、新井選手の進化は止まらない。

6月24日に出国、7月10日に帰国。

そして、いよいよ6月24日に出国、成田を発ち大会開催地であるヨーテボリに入る。大会前には3日間のトレーニングキャンプも予定されている。ここで初めてフィヨルド地形(*10)の洗礼を受けることになるのだが、その対応策は? 「そうですね、尾上監督(*11)からまず直進を当てろと一番に言われました。できるだけ長く(正確に直進できるように)といわれているんですけど、(日本での練習の中では)まだなかなかうまく当たらないので…」

日本の一般的なテイムよりも微地形が多く、比較的平坦なフィヨルド地形。その攻略の第一歩は、セオリー通り正確な直進を磨くことであろう。トレーニングキャンプを通して、フィヨルドの中での正確な直進を身につけられるかどうか、JWOCで好成績を収めるための鍵となりそうだ。次に地形のイメージについてこう語る。

「(尾上監督からもらった)地図を読んでも実際の地形が想像できないので、(地図上の地形が現地では)どの程度のものなのかというのをトレーニングキャンプでまず確認する必要があります。(フィヨルドの微)地形への対応がやっぱり一番の不安ですね。」



日本とは大きく異なるテイム。3日間のトレーニングキャンプで少しでもフィヨルド地形に慣れなくてはならない。難しい課題ではあるが、最高のトレーニングになることは間違いない。そのトレーニングキャンプを終えると、6月30日から7月6日の日程で、いよいよJWOCが始まる。大会ではスプリント、ロング、ミドル、リレーの4種目が行われるが、各レースの目標をどのように設定しているのだろうか? 「実際日本の中でどれくらいなのかというのがよくわかってきた状態なので、世界の中でどれくらいなのかというのは全くわかりません。ですので、一番の目標としては(JWOCのレースやそれにまつわるトレーニングを)楽しんで来たいと思っています。」

と、言いつつも冷静かつ精密な計算をしているようだ。「細かくは去年のJWOC(日本代表選手)の方(のタイム)を参考にして、トップから何%以内というように目標を立てました。具体的には、スプリントでトップから14%以内のタイムで、ミス率は15%以内で帰ってきたいと思っています。」

スプリントでトップから14%以内、ミドルは16%以内、ロングは17%以内。

JWOCはトップオリエンティアへの登竜門でもある。日本代表選手としての成果も期待されるが、それと同時にこの大会で何を学んだかがより重要になってくる。「ツボるのは2年生まで、と以前に先輩に言われて。 (だからこそ逆に)今のうちにツボってなんぼだと思って。ツボったことでまた何かそこで勉強できることも多いんじゃないかなと考えています。」

安全策より、果敢にチャレンジ。ジュニアの選手らしい積極的な姿勢が清々しい。これらの目標がぜひ達成されることを期待したい。今回のインタビューの最後に、JWOCに向けての抱負を聞かせてもらった。「故障があって満足なトレーニングができていないところもあるのですが、体との調整をとりながら、今現在の自分ができることを精一杯やりたいと思います。JWOC本番では、ベナったりするかもしれませんが、積極的なレースをして、後悔しないようなJWOCにしたいです。同期にも結構迷惑をかけてしまったりとか、先輩方にも色々動いていただいています。応援してくださっている方々に対し恥じることはないよう、頑張ってくださいと考えています。」

そう力強い決意でインタビューを締めくくってくれた。

「前向き。」新井選手とのインタビューを終えての感想である。失敗を恐れることなく様々なことに積極的にチャレンジし、それら全てを自分の力にする。そんな新井選手のJWOCでの健闘、そしてその先のレースでの活躍を期待したい。頑張れ、新井選手!!

*8 みちの会所属の皆川美紀子選手のこと。ナショナルチームの強化選手として登録されている日本のトップ競技者の1人。

*9 いわずとした日本女子のエース番場洋子選手のこと。

*10 日本のテイムは傾斜が急で尾根沢が比較的是っきりしているのに対し、北欧のテイムは比較的傾斜が緩やかで、似たような形をした小さな尾根沢が無秩序に多数存在する。日本とは全く異なるテイムの様子を、なかなか慣れることができない選手も多い。

*11 日本オリエンテーリング協会強化委員の尾上秀雄氏のこと。JWOC2008オフィシャルの1人。JWOCにオフィシャルとして長年携わり、多くのジュニア選手を育成してきた。なお、本年度のオフィシャルは、尾上氏、藤井範久氏、大野稔生氏の3名。



プロフィール

氏名 新井宏美 (あらい ひろみ)

所属 新潟大学(2年)

専攻 法学
(特に民法の講義が楽しみ)

趣味 音楽鑑賞、映画鑑賞
(おすすめはヒュー・グラント主演、『ラブ・アクチュアリー』)

特技 お琴
(邦楽部の練習は夜10時や朝7時に練習開始のことも!)

Road to Göteborg

JWOC2008への道のり



左下 コントロールをチェックし、次の目標へ向かう。
写真提供: 新潟大学オリエンテーリングクラブ

中央上 インカレミドル、A-final後の新井選手。
選手権クラスで14位という結果を残し、JWOC出場を本気で考えるようになる。
写真提供: 新潟大学オリエンテーリングクラブ

右上 インカレミドル、A-finalでの力走。
写真提供: 新潟大学オリエンテーリングクラブ

中央下 インタビュー後、新潟大学のキャンパスにて。
1時間を超える取材でしたが、インタビュー中も笑顔で質問に答えてくれました。
撮影: 古田島